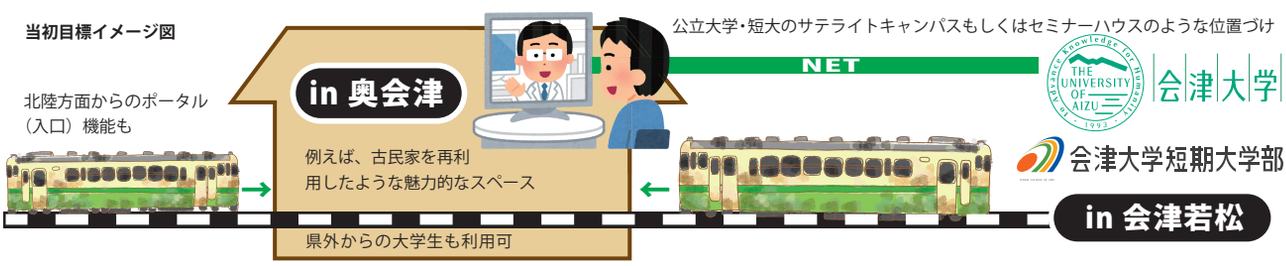
2017年度 会津大学戦略的研究費（一般枠）

奥会津に古民家キャンパスをつくる可能性を探るための基本調査

【2017年度 報告レポート】



INDEX

0．主旨および地域基礎データ ・・・・・・・・・・・・・・・ 2p.

1．調査対象 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 5p.

2．奥会津地域の課題（住民意識）・・・・・・・・・・・・・ 6p.

3．奥会津地域に若者が集える可能性 ・・・・・・・・・ 9p.

4．学科系統のニーズ ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・11p.

5．空き家の利用 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・13p.

6．ローカル鉄道の活用 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・14p.

7．総括 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・15p.

研究代表：会津大学短期大学部 産業情報学科　高橋延昌

共同研究：会津大学産学イノベーションセンター　藤井靖史

0．主旨および地域基礎データ

これまで首都圏の大学生や会津の大学生等が連携しながら当該地域を訪問・調査した結果、豊かな自然や地域資源の魅力が分かった反面、人口減少や少子高齢化といった社会問題が根底にあることが分かった。とくに若者の流出は大きな問題である。そこで、2017 年度以降は「奥会津地域に古民家キャンパスをつくる」というテーマで研究をすすめることにした。地元高校生の進学先や社会人教育の新たな学習機会として、また地域外から多くの人財が集まるだろうとも考え、新たなキャンパスをつくる可能性を探るための基本調査を実施した。2017 年度はアンケート用紙を配布する調査を実施したが、本書はその調査を結果をまとめ、地域の潜在的ニーズを探ってみた。

なお、奥会津らしい魅力のイメージとして「古民家キャンパス」というフレーズを端的に使用しているが、要は内外から若者が集いやすいスペースづくりを目標イメージにしているため、古民家・施設にこだわっているわけではない。「奥会津地域」というエリア（境界）については、便宜上「只見川流域」の町村周辺を想定する。

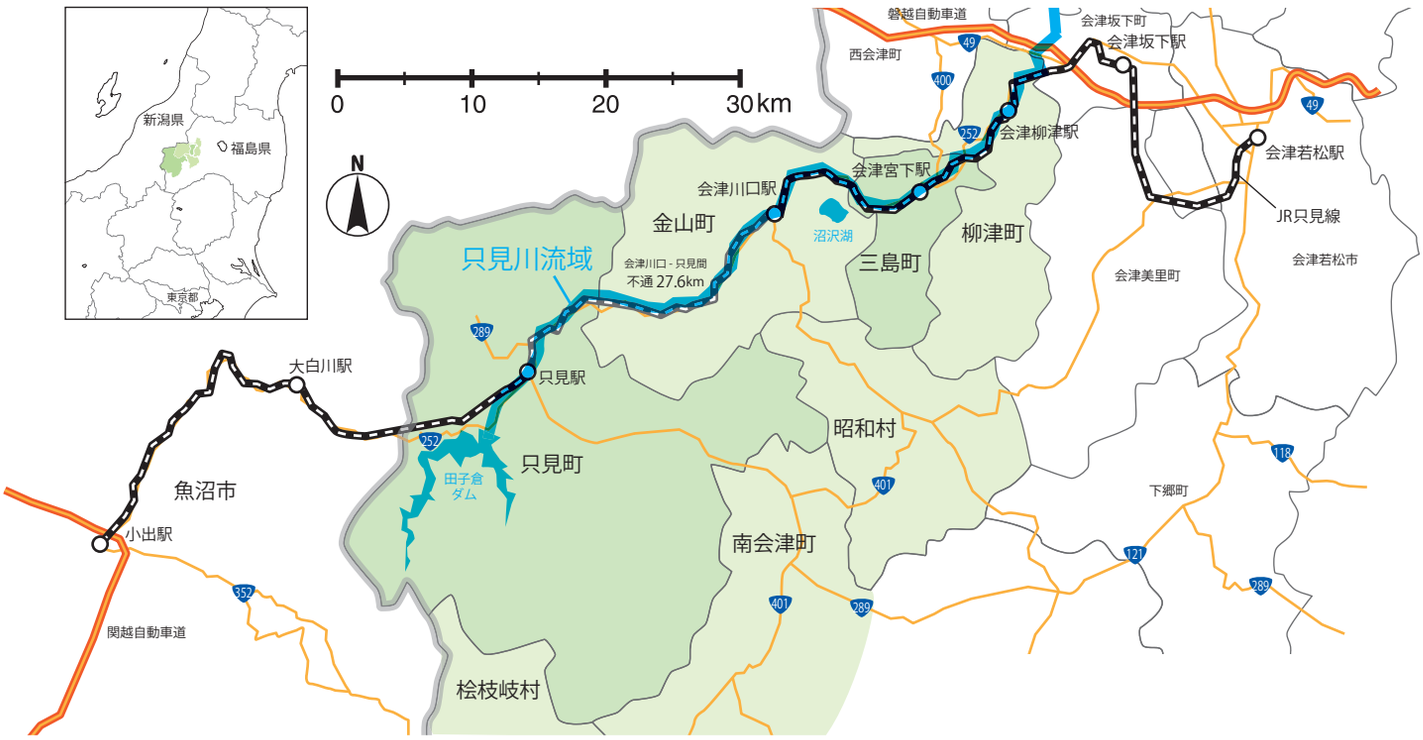
「只見川流域」とは、柳津町・三島町・金山町・只見町・昭和村の奥会津五町村と、田島地域を除く南会津町と桧枝岐村を加えた 7 町村である（只見川電源流域振興協議会による）。但し、実際は行政区分で厳密に分けられるものではないため、凡そのエリア区分として捉えている。

首都圏の大学生と会津の大学生による奥会津スタディツアー（2016 年 9 月 12 日　JR 会津川口駅）

学生による奥会津活性化ワークショップ（2017 年 8 月 30 日　会津大学）

学生等による奥会津研究発表会（2017 年 12 月 2 日　会場：拓殖大学）

基礎データ① 地図

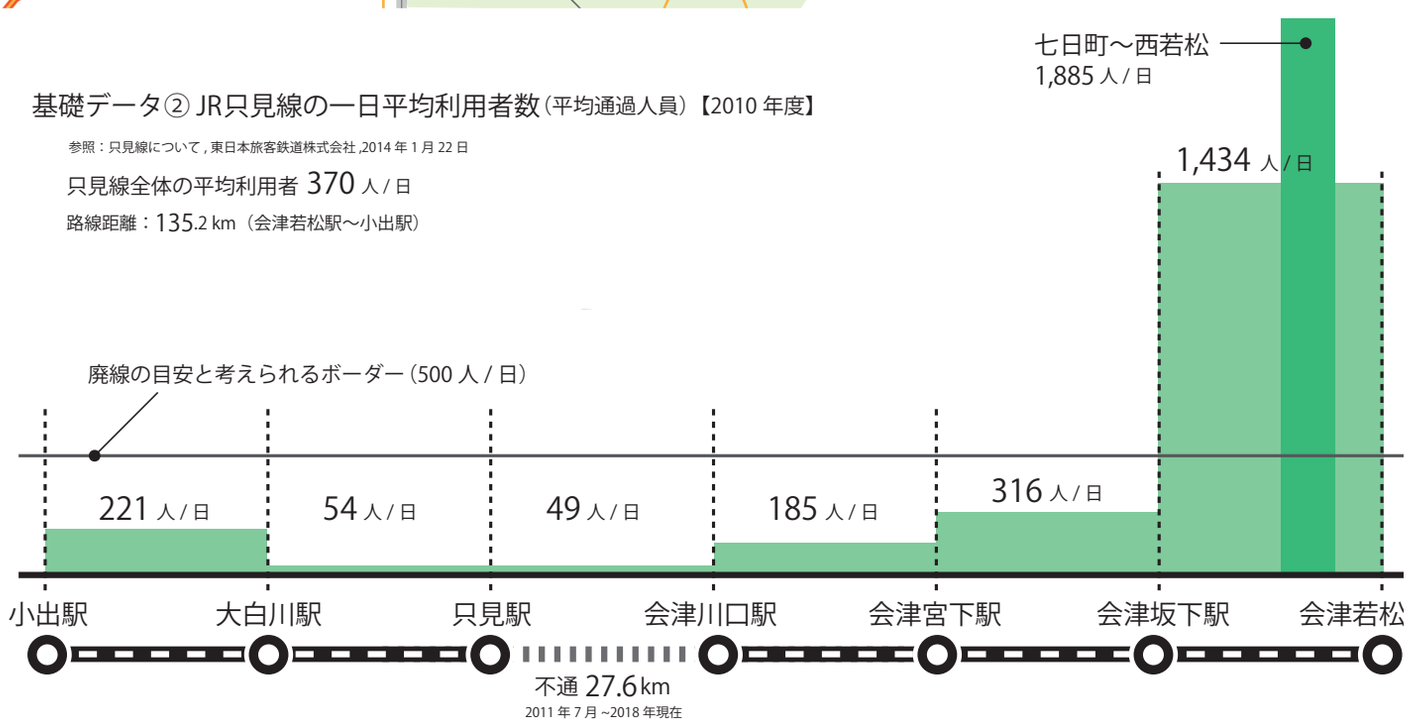


基礎データ② JR只見線の一日平均利用者数（平均通過人員）【2010 年度】

参照：只見線について , 東日本旅客鉄道株式会社 ,2014 年 1 月 22 日

只見線全体の平均利用者 370 人 / 日

路線距離：135.2 km（会津若松駅〜小出駅）



風光明媚な只見川流域には、JR 只見線が走っており、その列車の姿は奥会津地域のシンボルとなっている。

第一只見川橋梁を走る JR 只見線（2016 年 10 月 22 日　三島町）

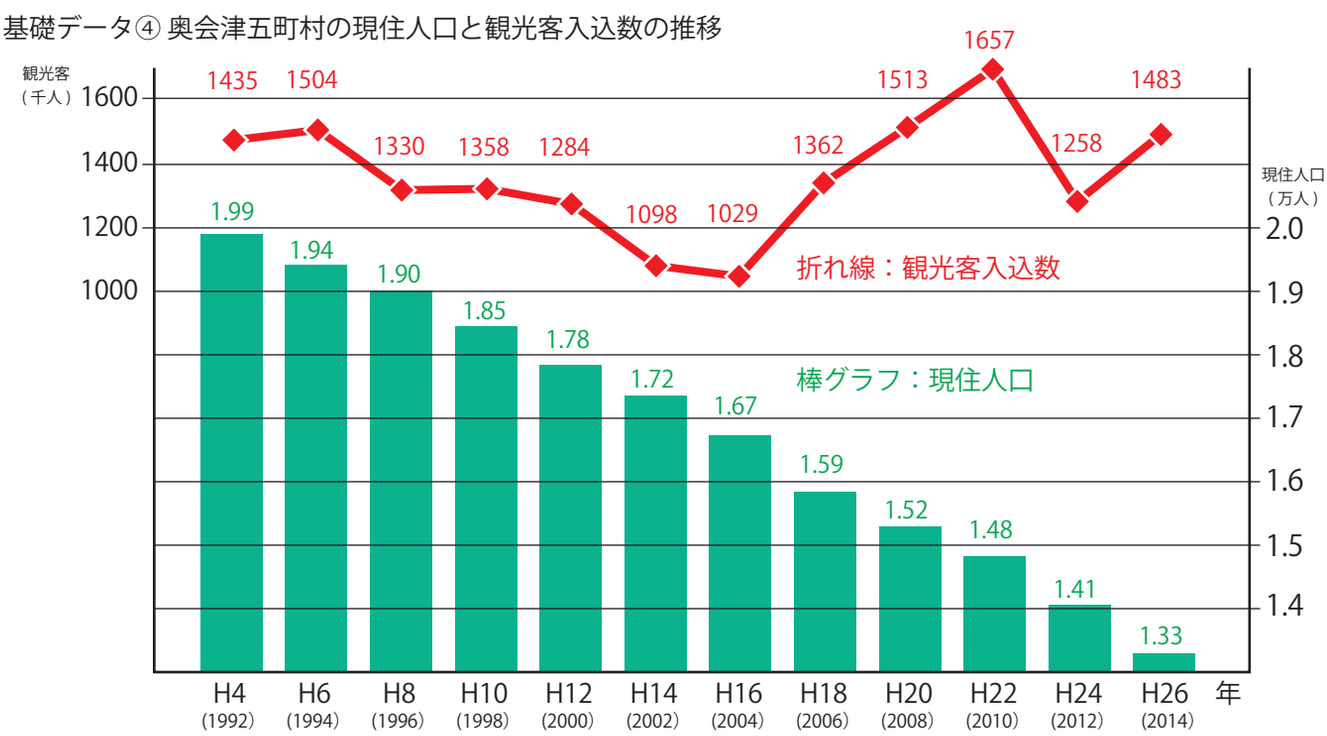
冬の JR 只見線（2016 年 12 月 29 日　金山町）星賢孝氏撮影

基礎データ③ 奥会津五町村と東京都区部（23 区）との比較表

分野	項目	柳津町	三島町	金山町	只見町	昭和村	東京都区部
地勢	総面積（km²） ※1	175.8	90.8	293.9	747.6	209.5	626.7
	可住地面積（km²） ※1	22.1	11.4	77.4	168.3	20.9	626.7
人口	人口（人） ※1	3,448	1,622	2,147	4,413	1,290	9,375,104
	人口密度（人 /km²） ※1	19.6	17.9	7.3	5.9	6.2	15,077.0
	世帯人数（人） ※1	2.74	2.43	1.99	2.43	1.96	1.86
	年少人口（%） ※2	10.4	7.1	4.6	9.2	5.8	11.3
	生産年齢人口（%） ※2	47.3	41.8	37.8	45.5	38.4	67.1
	老年人口（%） ※2	42.3	51.1	57.6	45.3	55.8	21.6
生活（雇用）	第一次産業就業者（%）※1	20.7	13.7	20.5	16.2	40.9	0.2
	第二次産業就業者（%）※1	29.2	28.2	23.0	33.4	13.6	16.6
	第三次産業就業者（%）※1	50.0	58.0	56.4	50.4	45.5	83.2
	従業地の就業者率（%）※5	83.8	109.9	101.6	99.3	102.8	190.5
	完全失業率（%） ※1	6.1	8.0	3.8	2.6	4.9	5.8
	（生活保護）保護率（‰）※6	4.7	8.1	6.8	3.4	6.0	24.0
	平均所得（万円） ※3	229.1	235.2	239.6	250.4	236.6	487.5
財政	一般会計予算（億円） ※4	37.0	22.4	30.2	59.6	18.6	70,110.0
	住民税（億円） ※4	3.8	1.7	4.9	1.5	0.8	52,083.0
	住民税の比率（%） ※4	10.3	7.6	16.2	2.5	4.3	74.3

※1　2016 年現在の推計　引用元：総務省統計局 国勢調査および住民基本台帳
※2　引用：福島県の推計人口（福島県現住人口調査結果）
https://www.pref.fukushima.lg.jp/sec/21025c/fukushimaken-genjou.html
※2　住民基本台帳による東京都の世帯と人口　平成 28 年
http://www.toukei.metro.tokyo.jp/juukiy/2016/jy16000001.htm
※3　「年収ガイド」http://www.nenshuu.net/　総務省発表の統計資料をもとに市区町村別の課税対象所得の総額を納税者数で除算した額を平均所得と規定してある。
※4　各町村が公表している平成 28 年度予算より算出。但し、東京都区部の値は区部だけでなく東京都全体の値である。
※5　各町村の従業地における就業者数を各町村の第一・二・三次産業就業者数で除算した。割合が高ければ地域外から従業地（内）へ労働者が来て、逆に低ければ外へ労働者が行く。
※6　柳津町・三島町・金山町・昭和村は 2014 年の値で、福島県保健福祉部社会福祉課「福島県における自治体支援の取り組みについて」平成 26 年 9 月 26 日公表資料より。
只見町は 2006 年の値で、「只見町統計要覧」平成 19 年度公表資料より。
東京都区部は 2013 年の値で、東京都福祉保健局「福祉・衛生　統計年報」平成 26 年度公表資料より。

基礎データ④ 奥会津五町村の現住人口と観光客入込数の推移



データの引用：福島県観光交流課「観光客入込状況」および福島県現住人口調査年報（現住人口は毎年 10 月の値であるため国勢調査の値とは若干異なる場合がある）

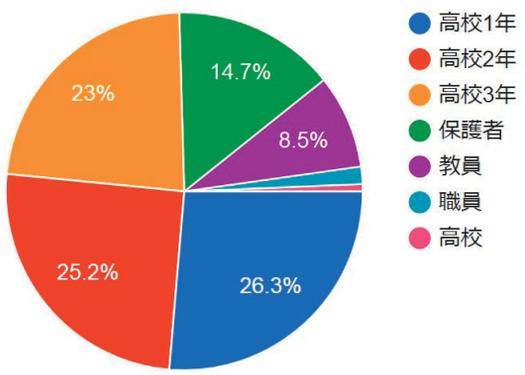
1．調査対象

調査は、なるべく若者のニーズを把握したかったため、また闇雲に配布しても有効回答が見込まれなかったため、只見川流域にある県立高等学校（3 校）に依頼し、高等学校の生徒・保護者・教職員を対象としたアンケート調査を実施した。アンケート用紙を配布し、回収したが、回答は 451 件である。

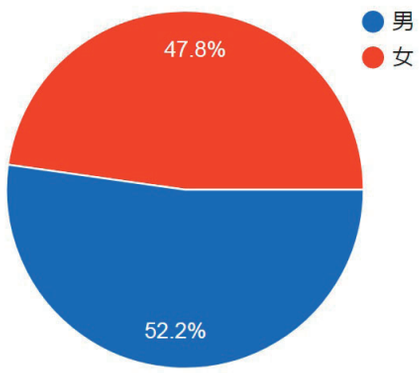
回答者の職業は高校生が 74.5%、保護者が 14.7%、教員 8.5% である。保護者や教員も高校生に接している立場なので、アンケートの意見は若い世代の意見を反映しているといえよう。

なお、JR 只見線の収入内訳をみると、4 分の 3 は「通学定期」すなわち高校生の利用が最も多い。それにもかかわらず、主たる利用者もしくは将来を担う世代からの視点での調査がなかったと思われるので、本調査は、若い世代のニーズを発掘した意義もあるともいえよう。

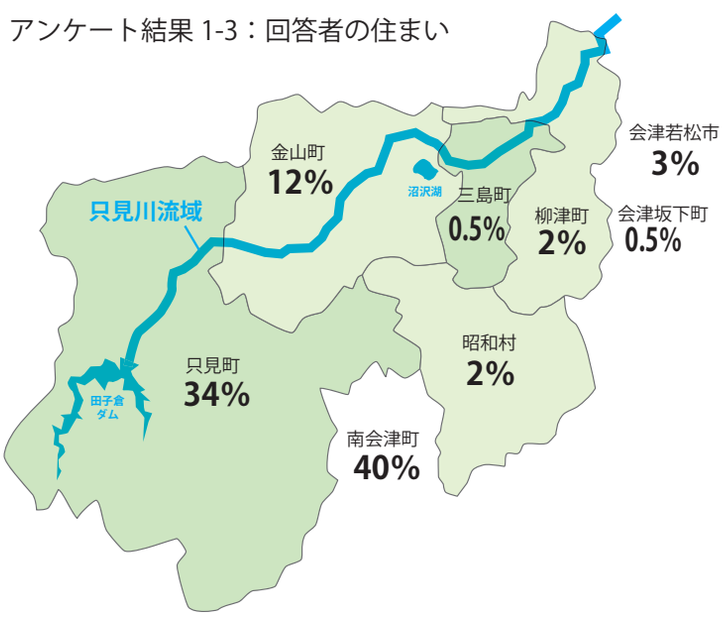
アンケート結果 1-1：回答者の職業



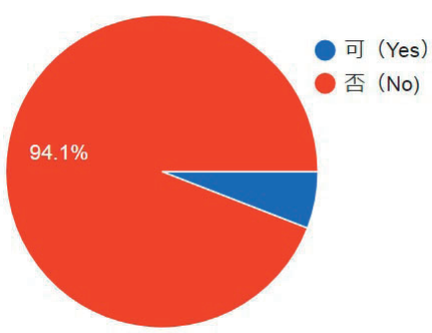
アンケート結果 1-2：回答者の性別



アンケート結果 1-3：回答者の住まい

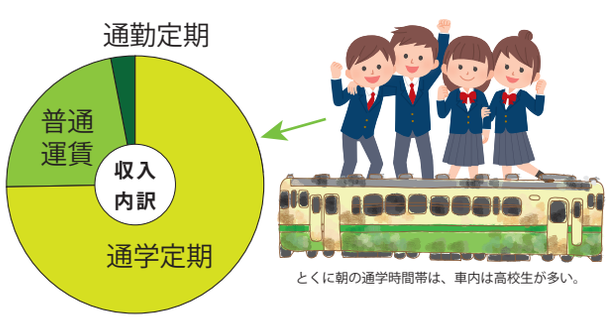


アンケート結果 7-1：もしも取材する場合があればお願いできるか



基礎データ⑤ JR只見線の収入内訳【2010 年度】

参照：只見線について , 東日本旅客鉄道株式会社 ,2014 年 1 月 22 日



とくに朝の通学時間帯は、車内は高校生が多い。

2．奥会津地域の課題（住民意識）

地域の活性化において、とくに重要だと考える要素は第一に「雇用」である。地域に若者が働ける場所（若い力が活かせる職場）がなければ人口減少（人口流出）が止まらないという共通認識がある。自由記述にあるように、教職員や保護者といった大人だけではなく、多くの高校生自身も「雇用」は重要課題だと考えている。南会津町の男子高校生「高卒の採用はあっても職業が似たような作業員のような仕事が多いので（例え一時的に地域外の）大学に行って（戻って）も生かすことが出来る職場が少ない」という意見が象徴的である。そういった雇用が第一の問題であり、その解決策として、着眼点によって観光・農業・特産品どれに力をいれるべきなのか意見が違ってくる。

只見町の男子高校生「素晴らしい町だと思う」と述べているように、若者からも郷土愛は感じられる。少なくともアンケート調査の中で、当該地域は不便であるが、郷土や歴史を誇りに思わないような否定的な意見は全く見られなかった。会津美里町から通っている女子高生「新しく企業を作りやすいようにする。観光名所での祭りが地元の人々が喜ぶだけで終わっている」の指摘のように、一時的な賑わいでは根本的な解決にならないことを高校生でも分かっているようにもみえる。

また、例えば 2018 年は「会津戊辰 150 周年」として会津の歴史を重要視するイベントもおこなわれるが、若い世代にとって歴史や伝統は生活に直接結びつくものでないかもしれない。南会津町の男性教員「歴史や古くからの伝統を強調しすぎると、若者にとって観光スポット以上の魅力 (例えば居住地としての魅力) は薄れる」という意見のように、観光として歴史や伝統にスポットを当てるのはよいが、それが定住促進につながるとは限らない。

なお、地域の面積のうち約 9 割は森林であるが、意外と林業にふれている意見はほぼなかった。

アンケート結果 2-1：地域の活性化において、とくに重要だと思われるもの

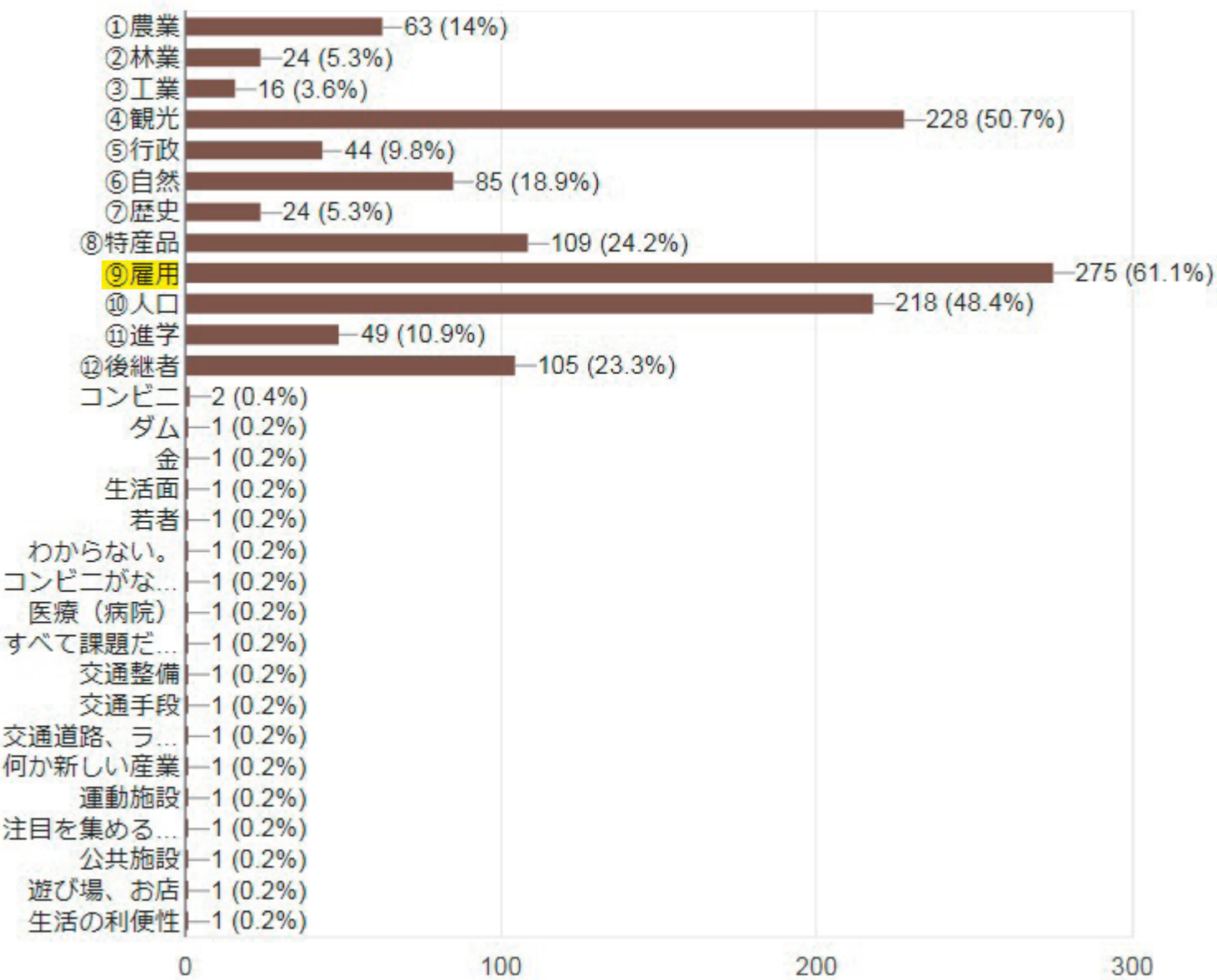
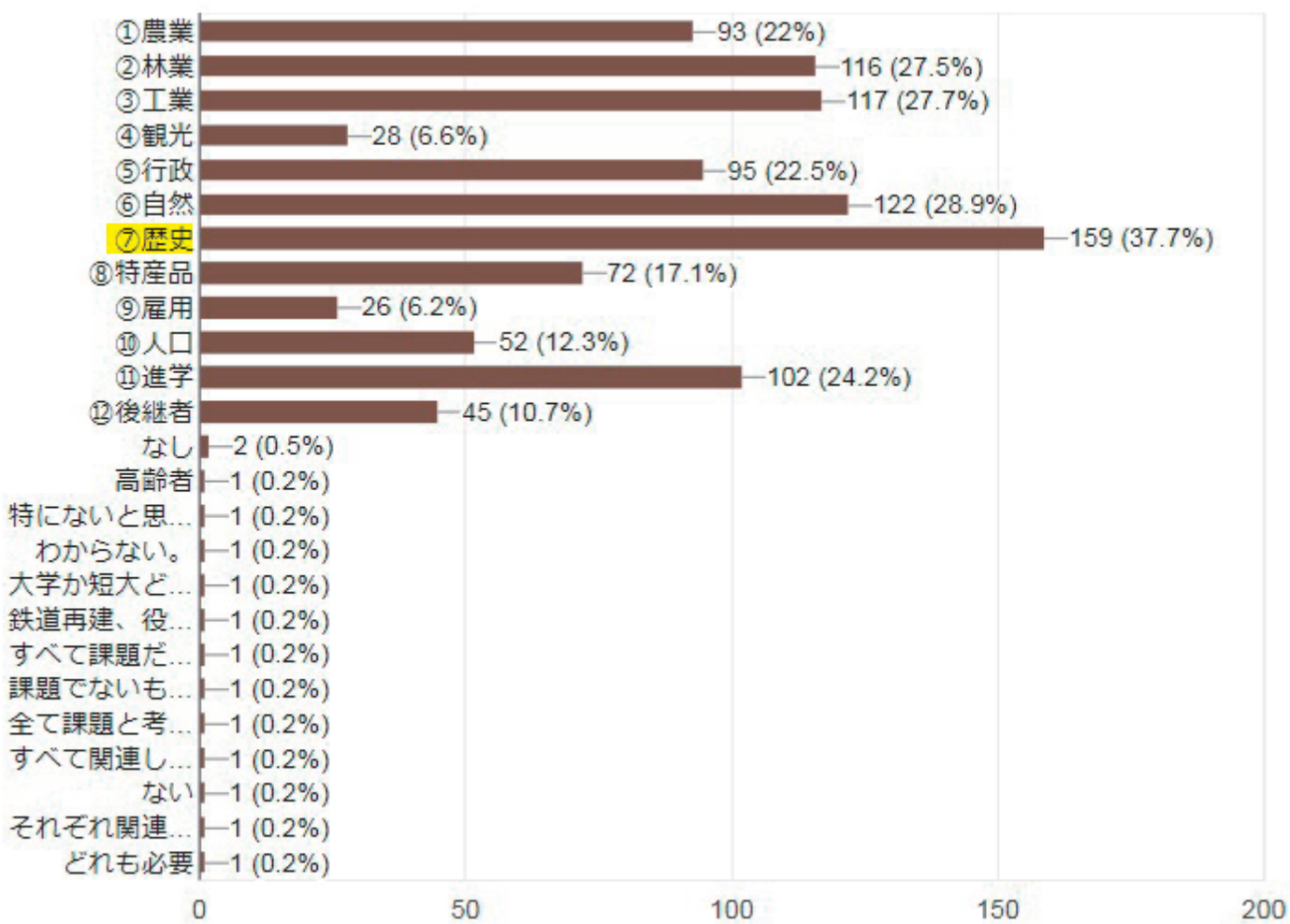


図　地域の活性化にかかわるキーワードのイメージマッピング

アンケート結果 2-2：地域の活性化において、大きな課題ではないと思われるもの



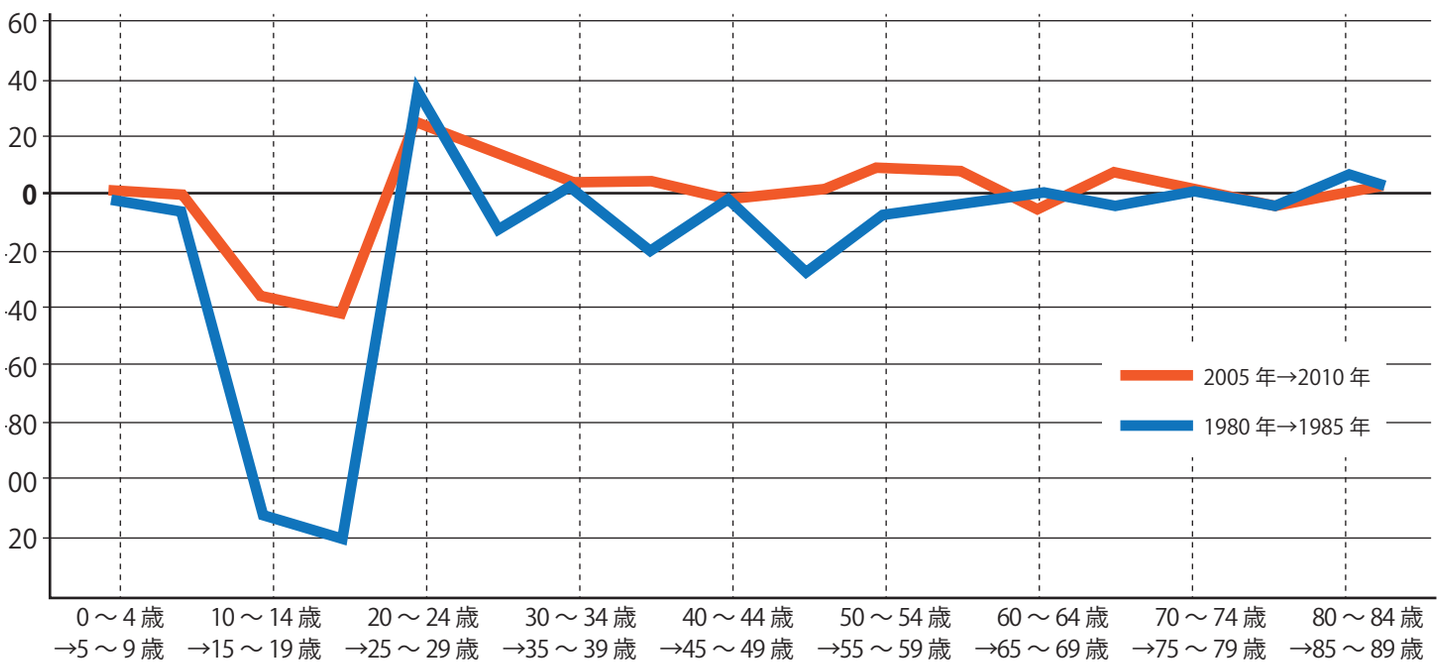
アンケート回答 2-3：地域の活性化について具体的な課題（個人的に思うこと）
【主な意見】
・高校卒業後に、地元に残る人や戻ってくる人が少ない。（教員・男性・只見町）
・働く場所、仕事があれば、労働力年齢にある 20 代～ 50 代の方々が町に定着できる。⇒人口の流出を防ぎ、少子高齢化を防ぐことが出来る。さらに農業や観光業､その他の職業についても発展していくのではないかと考えられる。（教員・女性・只見町）
・地元に残る子供が少ない。（高校 2 年・女性・只見町）
・せっかく素敵な特産品があるのに「高いから」という理由で使わないのでは広めるのはムリ。気取りすぎ。観光客が多いが対応（店や宿、交通機関など）があまりにも疎か。もっと活性化させたいのであればそれなりのウェルカム精神を持つべき。（高校３年・女性・昭和村）
・環境整備。大型車が多く通る今、道路をもっと広くする必要があると思う（高校１年・男性・金山町）
・特産品などもっと宣伝すれば良いと思う。（高校１年・男性・金山町）
・ショッピングができない。（教員・女性・会津坂下町）
・只見に留まる人を増やす＝雇用、後継者（保護者・女性・只見町）
・高校生が卒業したら、そして私たち自身も職場が少ない為すぐに働ける場所がない。やはり（人が住んでいる）地元で働ける場所を作ってほしい。そして病院。人口が少なくなると言っていて小児科がないことが問題。子供を産んでもすぐに病院へ連れていく小児科がない。何度も何度もアンケートで言っているのに改善されない。研修医でなくちゃんとした先生が必要。私たち住民は検体ではない。そこを充実しなければ人口は増えないと思う。（保護者･女性･只見町）
・職場を増やすことが課題だと思う（高校１年・男性・只見町）
・素晴らしい町だと思う（高校１年・男性・只見町）
・会津若松市に会津大、会津短大等の高等教育機関があるので、交通などの便利さ（利便性）が整えば地域を担う人材の教育に役立つと思います。ただ人数と学部・学群に限りがあり、会津大・短大に学部・学科を増やし、多くの学生を受け入れることができれば良いと思います。（保護者・女性・南会津町）
・観光できる場所が多くあるのに生かせていない。（高校３年・女性・南会津町）
・働く場所が少ないため I ターン者が少ない（高校１年・女性・南会津町）
・私の住んでいる地域も少子高齢化のため、若者が殆どいません。高校を卒業後、進学・就職先で外 (県外) にでてしまうのが現実です（保護者・女性・南会津町）
・農業・林業などの自然系は充実していると思うので、もっと観光の場を増やしたらいいと思う。（高校１年・男性・只見町）
・会津バスの利用者が少なく、運賃が高いところ。（高校３年・女性・南会津町）
・高卒の採用はあっても職業が似たような作業員のような仕事が多いので大学に行っても生かすことが出来る職場が少ないと思う。（高校３年・男性・南会津町）
・地域人口が増える雇用の場 (特産物や地域ならではの産業) があればいいと思います（保護者・男性・南会津町）
・奥会津地域の活性化は、豊かな自然を生かすのが大切だと考える。又、素朴なところも魅力なので、一度に多くの観光客を集めるようなことはしたくない。（保護者・男性・南会津町）
・工業、産業が活性化しなければ雇用も促進しない。理系技術者の育成がカギである。（教員・男性・南会津町）
･歴史や古くからの伝統を強調しすぎると､若者にとって観光スポット以上の魅力 (例えば居住地として) は薄れる（教員・男性・南会津町）
・高齢者向けの建物はたくさんありますが、町には若者もいるので若者向けの娯楽施設や飲食店などがほしい。（高校１年・男性・南会津町）
・長期的な見通しに立って地域おこしを考えるべきである。特に、若者が U ターンして働く気の起きる職場をつくる、つまり雇用の創出が１番の決め手となる。（教員・男性・南会津町）
・働く場所がないと人口も減り活性しない（保護者・女性・南会津町）
・観光業のように外部から人がくることも大切であるが、地域に住む人たちが、町の資源を活かして、活気ある生活ができるようになることも大切であると思う。（保護者・男性・南会津町）
・地域の定住化を図るためには、生活の便は求められている。また、若者にとっての魅力があるように、娯楽に関する施設もあるといい。（教員・男性・只見町）
進学して力をつけた人材が戻って来て、力を発揮できるところがあればと願います。（保護者・女性・南会津町）
・新しく企業を作りやすいようにする。観光名所での祭りが地元の人々が喜ぶだけで終わっている。（高校３年・女性・会津美里町）
･働く場所がないと人も住まないと思います｡生活していけなければ都会に行かなければならないと思います｡（保護者･女性・昭和村）
・働く場所が欲しい。交通手段 (電車やバス) の時間帯をもっと増やしてほしい（高校 3 年・女性・金山町）

3．奥会津に若者が集える可能性

奥会津地域は人口減少が著しく、この 40 年間で半減している。例えば、奥会津五町村の総人口は 1970 年代初めに約 3.0 万人いたが、現在は約 1.3 万人以下である。この人口減少は、実際に住んでいる住民にとって切羽詰るような地域課題だと思われる。しかし、人口減少の要因を調べてみると、単純に全体人数が少なくなっているのではなく、若者の流出が最大の要因である。下の「柳津町の年齢階級別の人口移動分析図」（他の地域も傾向は類似）のとおり、10 代後半の若者が進学や就職のため地域外へ出ざるを得ない状況にあり、戻れる人は戻るが、戻れない人が多いので､結果として地域から人がいなくなる構造である。元々 20 代後半以降は人口移動の振れ幅がほとんどないのだから、高齢者向けの政策を積極的にいくらおこなっても人口減少に歯止めがかからないのかもしれない。

本研究は当初、その減少に歯止めをかけるためには（奥会津地域には半径 50km 圏に高等教育機関が一切ないので）高等教育機関があればよいのではないかと仮定した。

表：柳津町の年齢階級別の人口移動分析図　柳津町「柳津町の人口ビジョン」(2016) を参照し抜粋

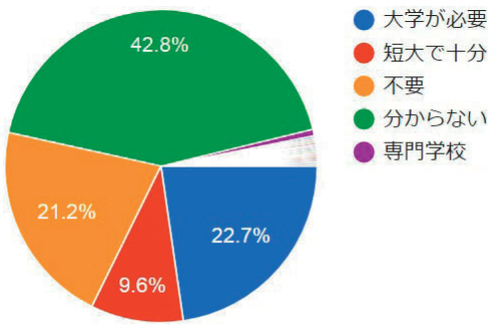


図：福島県内における高等教育機関の分布図　任意団体や専門学校は除く

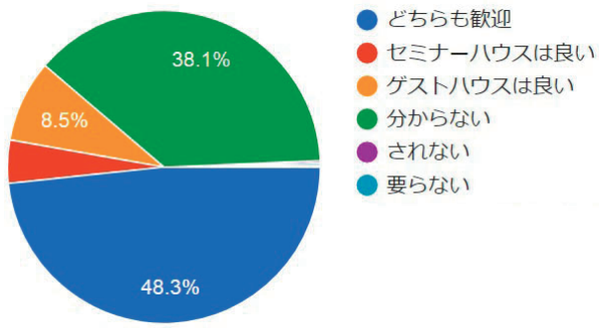
住民の意見としては、高等教育機関が絶対必要だという意見はあまりみられなかった。しかし、地域に大学のサテライトキャンパスやセミナーハウスなど、若い学生が地域に来ることは歓迎される傾向はみられた。

地域のニーズを鑑みれば、大規模なキャンパスや最新の遠隔システムは地域に必ずしも必要ではなく、セミナーハウスのような形態で若者と地域が交流できるようなしくみは歓迎されると確信できる。

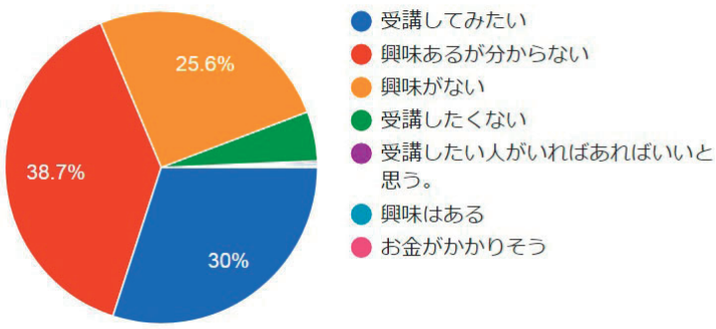
アンケート結果 3-1：地域に大学等の高等教育機関は必要か



アンケート結果 3-2：地域に大学等のセミナーハウス（合宿所）もしくはゲストハウスは歓迎されるか



アンケート結果 3-3：もしも遠隔システム等を活用して大学の講義を地域で受講できるとすれば興味はあるか



以前は奥会津・金山町にも東洋大学のセミナーハウスがあった（写真は 2017 年 11 月の金山町・沼沢湖）

アンケート結果 3-4：大学の講義を地域で受講できるとすれば、どのような科目もしくは内容だと興味あるか

［主な意見］

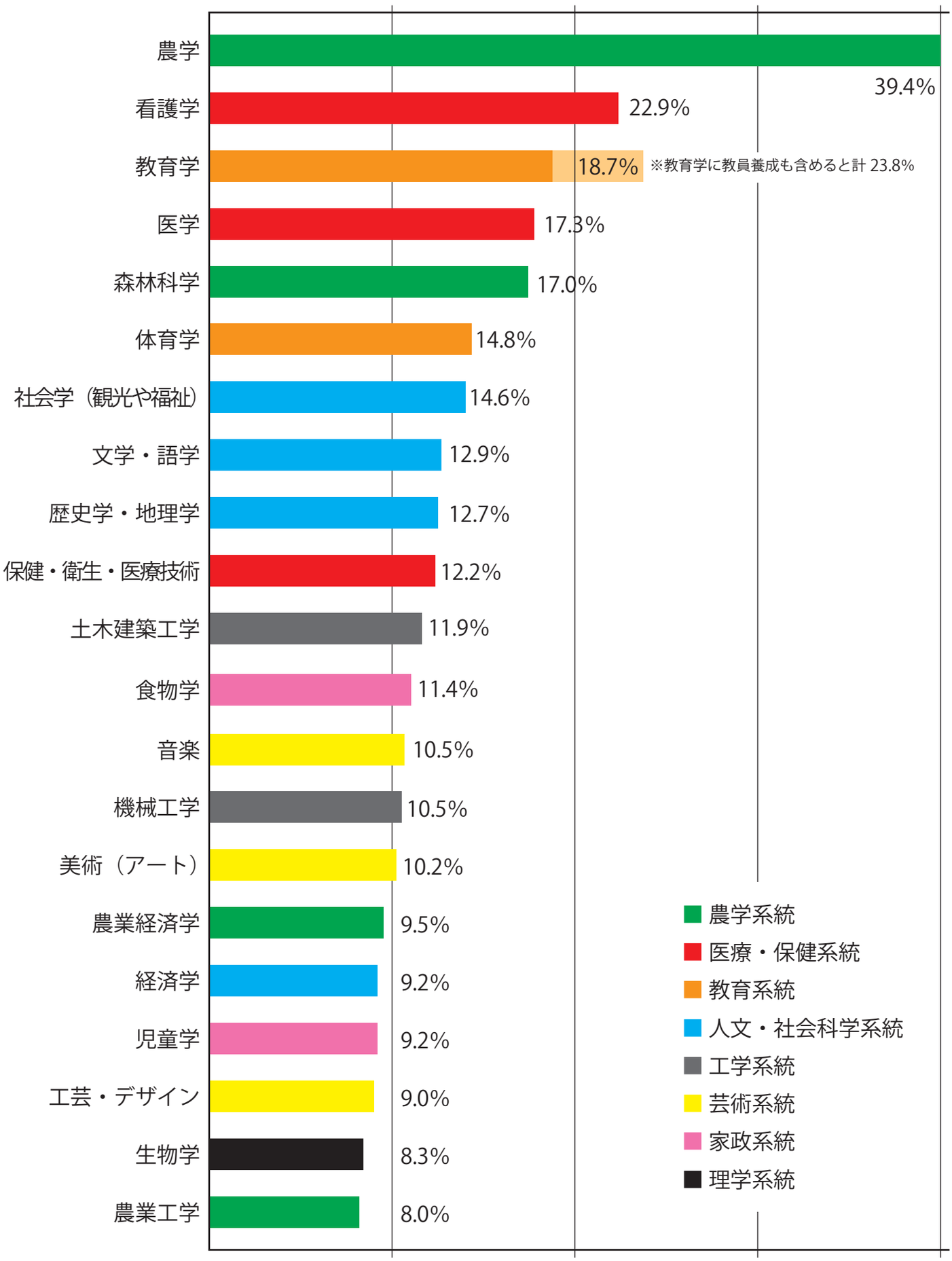
・地域に根差したもの（環境学、自然学など）（教員・女性・只見町）
・経済学科　アルリス社会主義と経済学の関係（高校２年・男性・只見町）
・小・中学生に経験させてあげたい。教育力の向上と会津大への進学（志願）増。（保護者・男性・南会津町）
・夫は歴史学。妻は看護学・栄養学に興味ある（保護者・南会津町）
・起業、IT 関係、都市計画（職員・男性・金山町）
・奥会津地域の環境を生かした内容や講義をしてもらえるとよい。（教員・男性・只見町）
・子どもに受けてほしいものであれば一般教育科目。自分が学びたいものは心理学。（保護者・女性・只見町）
・進学を希望する生徒に合った進路に関わる内容（教員・男性・南会津町）
・地域をどのようにすれば活性化していくことができるか。（高校 3 年・女性・南会津町）
・自分たちの住んでいる所について、調べたりする内容（高校 1 年・女性・下郷町）
・一対一で親身になって分かりやすく教えてくれればなんでも（高校 1 年・女性・南会津町）
・コンピューター関係、パソコンがあれば仕事できる。場所を選ばなくてもいいようになってきてるので。（保護者・女性・昭和村）
・できるだけすべてのニーズに対応した科目、例えば福大や会津大、いわき明星大などで設置されている科目は受講できればなおいいと思う。（教員・男性・南会津町）

4．学科系統のニーズについて

もしも地域に高等教育機関があるならばどのような学科にニーズがあるか尋ねた結果は、次のとおりである。

アンケート結果 4-1：学科系統のニーズ（上位 21 位）

「学科逆引き大学辞典」（廣告社株式会社）の分類に基づいた 58 つの学科の中から一人 5 つまで選択した



大学は、教育機関もしくは研究機関としての側面があるが、本調査ではあえてそういった側面は限定しないで調査したせいか、回答者の意見はほとんど教育機関としての要望がみられた。教養を重視した学科よりも就職に直結する学科を望まれる傾向が強い。

学科のニーズとしては圧倒的に「農業」が多かった。地域の産業規模とみると一見農業は決して大きなものではないように思われるが、地域では多くの人が自分で水田や畑を所有しており、生活基盤として農業がとても身近な存在であるようだ。ゆえに、学科のニーズとしても高まると推測できる。2018 年現在、福島大学は「食農学類」を将来新設する予定であるが、農業が盛んな本県のニーズに合う学科設置ではないだろうか。

アンケート結果 4-2：地域にあるべき学科を選んだ理由

［主な意見］

・観光や農業が盛んだから（高校 3 年・男性・南会津町）

・自然豊かなので農学系統が良いと思われる。（高校 3 年・男性・只見町）

・歴史・地理は歴史のある地域にはあったらいいと思う。教育学は個人的にあったらいい。（高校 2 年・女性・金山町）

・この地域の特色は活かせそうだから、生物学→豊富な自然での研究、土木建築→インフラ整備が必要 (災害に負けないもの作り)、農芸化学→かすみ草、金山かぼちゃ等、被服→からむし織から繊維の研究、福祉→過そ地での福祉学 (歴史的な所から)（保護者・女性・昭和村）

・この町に伝わる文化（聞き書きも！）を後世に引き継いでいくべきだと思う。（高校 1 年・男性・会津若松市）

・只見ならではの農学、只見だからこそのアート（保護者・女性・只見町）

・体育、子供や音楽が好きだから（高校 1 年・男性・只見町）

・文学・語学、会津大・会津短大にないものでこれからの地域社会で必要とされると思われるから。（保護者・女性・南会津町）

・地方での医療は大切だと思います。（教員・女性・南会津町）

・生物学、地域の環境を利用できるため。（教員・男性・南会津町）

・南会津町は農業が主要産業ということもあるので、遠くに行かなくても農家と共に農業体験ができるから。教育学は大人数の学校だけでなく少人数の学校に実習できるので幅広い教育ができる能力がつきそうだと思ったから。（高校 3 年・女性・南会津町）

・農学、自然がたくさんあるから（高校 1 年・女性・只見町）

・薬学・看護学・保健・衛生・医療技術、自分で気になっている教育のため。医学に関しては交通アクセスが悪い場所なので省きました（保護者・女性・南会津町）

・農業や機械関係がさかんでスポーツも優秀だから。（高校 1 年・男性・南会津町）

・音楽をやりたいので東京に行く人が多いので、この地域にも音楽の専門学校がほしい。（高校 1 年・女性・只見町）

・地域の資源を生かすことを考えれば、基幹産業である農業や観光に関連する学科を置き、産学連携して事業を展開できると考えるから。（教員・男性・南会津町）

・奥会津では、農業への関心が薄れていて、若者がもっと農業への関心がひくように講義してもらいたい（保護者・女性・南会津町）

・歴史、地理学は地元の歴史を専門的に調べられるから。教育学や児童学は、周りに教員や保育士などを目指す人が多いから。（高校 3 年・女性・南会津町）

・奥会津では工芸品が有名だから " 工芸 " は入れた方がいい。（高校 2 年・女性・三島町）

・理学系学際・農学・保健・衛生・医療技術・教育学、地域で需要があると思われてるから（教員・男性・只見町）

・会津の良さを全面に出すために、必要だと思ったから。（高校 3 年・女性・会津若松市）

・哲学・心理学、一番興味がわき、気になるため（高校 3 年・女性・金山町）

5．空き家の利用について

例えば、金山町は人口約 2,200 人、約 1,100 世帯であるが、空き家の数は約 300 戸。物置小屋なども含めるとなんと金山町だけで約 400 戸も空き家がある（金山町役場住民課保健福祉係より）。それほど、奥会津地域には多くの空き家があり、社会問題となっている。

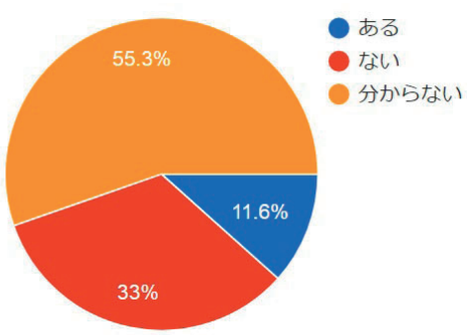
そういった空き家を地域外から来る若者が集える場所として活用できる可能性があるのかも調査してみた。なお、高校生では住宅についての判断が難しいので、「分からない」という回答が多くなってしまった。

ともかく結果として、該当物件は勿論相当あるが、古くて実際に使えるとは思えない感想や、運用（運営）コストを心配される意見が目立った。

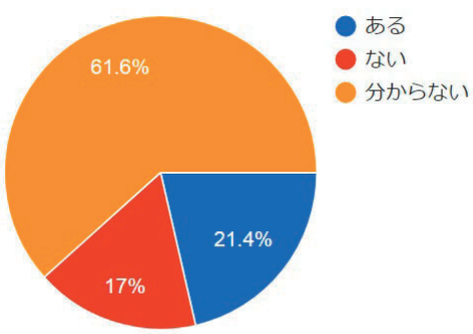
古民家をゲストハウスとして運営している事例
（2017 年 8 月 29 日　三島町「ソコカシコ」）

古民家を改築しオフィス兼住宅として運用している事例
（2017 年 10 月 22 日　三島町「清匠庵」）

アンケート結果 5-1：若者が集えるような空き家もしくは古民家は近くにあるか



アンケート結果 5-2：空き家もしくは古民家を一定期間だけゲストハウスとして利用することは考えられるか



［主な意見］
・我が家（旧家）（高校 3 年・女性・只見町）
・空き家というか集会所（高校 1 年・男性・昭和村）
・空き家はあるが状態によっては使えない場合もある。（保護者・男性・南会津町）
・空き家は地区に何件もあるが、古すぎて（保護者・女性・南会津町）
・廃校の中学校や、多数ある空き家（保護者・男性・南会津町）
・管理が大変なのでは？誰がどう管理するのか？（保護者・女性・金山町）
・南会津町静川の「臣の郷」のようなところにお尋ねしてみてはどうでしょうか。個人で同様のことをやっていらっしゃるので。（保護者・女性・南会津町）
・管理がきちんと出来るシステムがあるならば。（教員・女性・金山町）

6．ローカル鉄道の活用

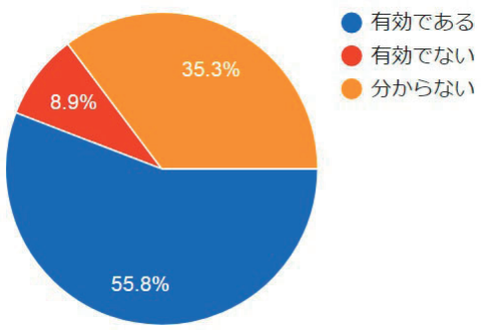
奥会津地域を走るJR只見線は2011年の豪雨災害で一部不通になったままであるが、2017年に完全復旧の方針が決まった。かなり多額の公費を投資することによる完全復旧であるが、それだけ地域にとって守りたいシンボルなのであろう。

そのシンボルについて、地域の若い方はどのようにみているのかも尋ねてみた。

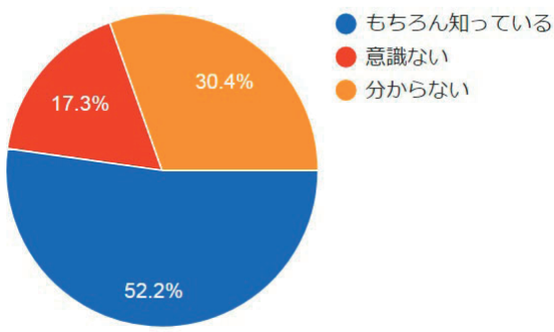
イベントがある時はもちろんのこと通常でも住民は列車に手を振って歓迎する（2015年9月22日　JR只見駅）

イベント列車が走る際は、それに合わせて駅前で出店や太鼓で歓迎する（2016年5月3日　JR会津川口駅）

アンケート結果6-1：沿線に住んでいる場合、鉄道が交通手段として有効か



アンケート結果6-2：鉄道は観光資源として注目される場合があること



アンケート結果6：ローカル鉄道の活用について自由記述

- 運行本数が少ない※意見多数
- 不便（高校3年・男性・只見町）
- お金がかかる（高校1年・男性・只見町）
- バスの方がよい（高校1年・男性・只見町）
- 車を使ったほうが早い（高校1年・男性・南会津町）
- 何をするにも車がないと不便。（職員・男性・南会津町）
- 基本は住民のほとんどは車であるが、鉄道が存在することの意義は大きい。（教員・男性・南会津町）
- 町民全体の利用が難しい（高校2年・男性・只見町）
- バスの方がいい（高校2年・男性・只見町）
- 金がかかる（高校3年・女性・会津美里町）
- 有効でない、交通費・増やしてしまうと環境破壊につながる。（高校3年・女性・会津若松市）
- 移動時間に長くかけるのか？短くかけるのか？（教員・男性・会津若松市）

7．総括

前述したとおり、奥会津地域は豊かな自然や地域資源の魅力がある反面、人口減少や少子高齢化といった社会問題が根底にある。40 年間で人口が半減している現実は、明らかに地域の衰退を映し出している。地域のインフラやイベントに毎年多くの公費を投じているが、衰退の流れは変わらない。今はまだ豊かな都市部の財源を地方にまわすことが出来ている（基礎データ③で示したとおり、町村の一般会計予算に占める住民税は極わずかで殆ど外からの交付金や補助金に依存している）が、我が国全体の経済力が高度成長する見込みがないのだからいつまでも依存できる保障はない。

そういった地域の問題解決に向けて、大学・短大として何か具体的なアクションをおこない、地域貢献しようとしたことが本研究のきっかけである。

これまでも地域では様々な討論やワークショップが開催されてきた。行政主体でも民間主体だとしても、多くの住民が熱心に参加している姿をみて、とても感心するばかりである。しかし、いつも参加されるのは中高年齢の方ばかりで、地域の資源や歴史に誇りを持たれている話ばかりを耳にした。それはそれでよいのだが、そもそも人口が減少する（地域が衰退する）最大の要因は若者流出なのに、当事者である若者のニーズを吸い上げているようには到底思えなかった。よって、本研究は、主に若者をターゲットに地域にニーズを汲み取り、そして、大学として具体的に何か地域貢献できるかどうか可能性を模索してみた次第である。

最後に、本研究のさらなる発展を期待したい。

奥会津地域は昭和の雰囲気や情緒を残しているが、1984 年当時と変わらない現在の風景を端的に紹介している筆者（2017 年 5 月 27 日　越後須原）

奥会津地域ではイベントが多数おこなわれているが、とくに冬のシーズンには町村ごとイベントが同時多発的に開催されている（2016 年 2 月）

福島県生活環境部主催の只見線利活用プロジェクトによる地域活性化アイディア創出ワークショップの様子（2017 年 5 月 13 日　金山町公民館）

民間主体の「第 6 回只見線応援ミーティング」、後半は只見線を活用したブライダルトレインをテーマにワークショップを開催（2017 年 12 月 16 日　会津美里町新鶴公民館）

参考：配布したアンケート用紙（縮尺 40%）

整理番号			

※記入しないでください。

奥会津に古民家キャンパスをつくる可能性を探るための基本調査 2017

アンケートにご協力お願い致します。

◆主旨

これまで本学生等が地域を訪問・調査した結果、豊かな自然や地域資源の魅力が分かった反面、人口減少や少子高齢化といった社会問題が根底にあることが分かりました。とくに若者の流出は大きな問題です。そこで、**「奥会津地域に古民家キャンパスをつくる」**というテーマで研究をすすめることになりました。地元高校生の進学先や社会人教育の新たな学習機会として、また地域外から多くの人財が集まるだろうとも考えていますので、新たなキャンパスをつくる可能性を探るための基本調査にご協力の程よろしくお願い致します。

なお、奥会津らしい魅力のイメージとして「古民家キャンパス」というフレーズを端的に使用していますが、要は内外から若者が集いやすいスペースづくりを目標イメージにしています。

「奥会津地域」というエリア（境界）については、便宜上「只見川流域」の町村を想定しています。

目標イメージ

◆情報の取り扱いについて

統計的に取りまとめますが、許可無く個人が特定されないようにします。取り扱いには十分に気をつけます。

◆回答方法

本紙にご記入の上、ご返信下さい。全 4 ページ（A 3 サイズ 1 枚の両面）あります。

具体的な提出方法は、各学校からの指示に従って下さい。　締め切り：2017 年 11 月　　日まで

◆問い合わせ先 / 実施責任

会津大学短期大学部　産業情報学科　高橋研究室

〒965-8570　会津若松市一箕町八幡字門田 1-1　TEL.0242-37-2300（代表）

2017 年度会津大学戦略的研究費（一般枠）研究題名：奥会津に古民家キャンパスをつくるための基礎調査

Q 1．ご回答者について

1-1　　高校　年生　・　保護者　・　教員　・　職員

1-2　男　・　女

1-3　お住まい：　　町 村

Q 2．奥会津地域の課題について

2-1　地域の活性化において、**とくに重要だ**と思われるものは？（**上位 3 つまで**）

①農業　②林業　③工業　④観光業　⑤行政　⑥自然　⑦歴史　⑧特産品　⑨雇用（働く場所）

⑩人口　⑪進学　⑫後継者　⑬その他（　　）

2-2　地域の活性化において、**大きな課題ではない**と思われるものは？（**上位 3 つまで**）

①農業　②林業　③工業　④観光業　⑤行政　⑥自然　⑦歴史　⑧特産品　⑨雇用（働く場所）

⑩人口　⑪進学　⑫後継者　⑬その他（　　）

2-3　地域の活性化について具体的な課題（個人的に思うこと）があれば記述お願いします。（自由記述）

Q 3．奥会津地域に若者が集える可能性について

3-1　地域に大学等の高等教育機関は必要でしょうか？（一つだけ回答）

①大学が必要　②大学ではなく短大があれば十分　③大学も短大も不要　④分からない

⑤その他（　　）

3-2　地域に大学等のセミナーハウス（合宿所）もしくはゲストハウスは歓迎されるでしょうか？（一つだけ回答）

①どちらも歓迎する　②セミナーハウスは良い　③ゲストハウスは良い　③分からない

⑤その他（　　）

3-3　もしも遠隔システム等を活用して大学の講義を地域で受講できるとすれば興味はありますか？（一つだけ回答）

①受講してみたい　②興味あるが分からない　③興味が無い　④受講したくない

⑤その他（　　）

3-4　大学の講義を地域で受講できるとすれば、どのような科目もしくは内容だと興味ありますか？（自由記述）

Q 4．学科系統のニーズについて

4-1　もしも地域に高等教育機関があるとすれば次のいずれかニーズがあるでしょうか？✔印をつけて下さい。（**上位 5 つまで**）

人文科学系統

- □ 文学・語学　0101
- □ 歴史学・地理学　0102
- □ 哲学・心理学　0103
- □ 文化学　0104

社会科学系統

- □ 法学　0201
- □ 政治学　0202
- □ 経済学　0203
- □ 商学　0204
- □ 経営学　0205
- □ 社会学（観光や福祉など）　0206
- □ 社会科学系学際　0207

理学系統

- □ 数学　0301
- □ 物理学　0302
- □ 化学　0303
- □ 生物学　0304
- □ 地学　0305
- □ 広域科学　0306
- □ 理学系学際　0307

工学系統

- □ 機械工学　0401
- □ 電気通信工学　0402
- □ 応用物理学　0403
- □ 土木建築工学　0404
- □ 応用化学　0405
- □ 応用生物学　0406
- □ 材料工学　0407
- □ 経営工学　0408
- □ 工業デザイン　0409
- □ 工学系学際　0410
- □ 商船学　0501

農学系統

- □ 農学　0601
- □ 農芸化学　0602
- □ 農業工学　0603
- □ 農業経済学　0604
- □ 森林科学　0605
- □ 獣医学・畜産学　0606
- □ 水産学　0607

医療・保健系統

- □ 医学　0701
- □ 歯学　0702
- □ 薬学　0703
- □ 看護学　0704
- □ 栄養学　0705
- □ 保健・衛生・医療技術　0706

家政系統

- □ 家政学　0801
- □ 食物学　0802
- □ 被服学　0803
- □ 住居学　0804
- □ 児童学　0805

教育系統

- □ 教育学　0901
- □ 体育学　0902
- □ 教員養成　0903
- □ 総合科学　0904

芸術系統

- □ 美術（アート）　1001
- □ 工芸・デザイン　1002
- □ 音楽　1003
- □ 芸術系学際　1004

総合・学際系統

- □ 教養学　1101
- □ 国際関係学　1102
- □ 人間科学　1103

その他

- □ 分類不明　9999

↓

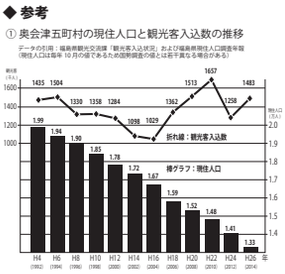
注 1　上述の系統は、廣告社株式会社「学科逆引き大学辞典」（http://www.gyakubiki.net）の分類に基づいています。

注 2　4 桁の数字は便宜上の分類コードです。

4-2　4-1 で選んだ理由が特にあれば記述お願いします。（自由記述）

◆参考

① 奥会津五町村の現住人口と観光客入込数の推移



② 福島県内における高等教育機関の分布図